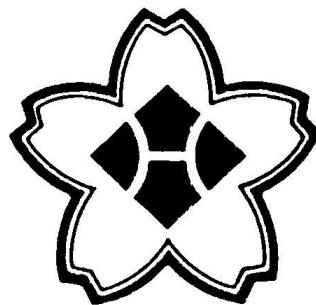


令和 7 年度

「運営に関する計画」



中間評価

大阪市立矢田東小学校

令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 6 年度全国学力・学習状況調査から

- ・国語・算数ともに全国平均・大阪市平均を下回った。前年度まで縮まってきつつあったがまた少し開いた。国語科では、「B 書くこと」「C 読むこと」については全国・大阪市と比べると正答率に差はあるものの、他領域より近い値となった。算数科では「図形」が最も正答率が高かったが他の領域については全国・大阪市と比較すると大幅な差が開く結果となった。特に「データの活用」については20%近く下回っている。平均無回答率については全国・大阪市平均よりも多かった。これまででは、全国平均よりも下回る結果が出ていたが、今年度は 2 教科ともに大阪市の倍近くの無回答率となってしまった。また、2 教科の第Ⅳ区分の割合をみると算数科において昨年度の倍の割合に増えている。

これまで、学校独自の取組として「矢田東漢字・計算クライミング」という漢字と計算に特化した、基礎基本の学習に力を入れて取り組んでいる。全国学力テストのような、応用・発展型の問題についてはまだまだ至らないが、まずはしっかりと学力の土台（基礎学力）を固めて積み上げられるようにしていきたい。

令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から

- ・令和 6 年度は、50m走に重点を絞って体力向上に取り組んだ。5 年生の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男子は全国・大阪市の平均値とほぼ変わらない記録で、女子は全国・大阪市平均を上回ることができた。他には、男子では長座体前屈で上回ることができた。女子は握力・長座体前屈・20m シャトルランテスト・立ち幅跳び・ソフトボール投げの 6 種目で全国か大阪市のどちらか、もしくは両方の平均値よりも上回ることができた。男子についてはもとの実施人数が 10 人と非常に少ないため、一人の記録で数値としてすぐに反映されていると考えられる。体力合計点は、男子が全国平均から約 3 ポイント、大阪市平均から 1.4 ポイント下回った。女子は全国平均より 0.72 ポイント、大阪市平均から 0.73 ポイント上回った。今後も普段の休み時間の遊び時間の確保であったり、体育科の授業の質的な向上を目指したりしていくことが必要である。
- ・令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査のアンケートの「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問には、男女ともに肯定的に回答している率が大変高い（男子 100%・女子 90.4%）。ただ、「体育の授業は楽しいですか」の質問には、男子は「楽しい」の回答は 100% であったのに対して、女子は「楽しい」は 50% であった。「やや楽しい」を入れると 95% になるが、体育の授業の質的な向上は必要であると考えられる。

令和 6 年度大阪市小学校学力経年調査から

- ・3～6 年のすべての学年で昨年度と比較（※3 年生は昨年度の 3 年生との比較）したところ、市平均を上回ることはできておらず、4 教科の標準化得点は昨年度まで少しづつ上昇傾向がみられていたが、今年度は下がっている教科が多い。しかし、国語・算数において分析したところ、基礎問題においては 3・4 年生は昨年度の同学年と比べて上回っている。経年で比較しても 4・5 年生は基礎問題において向上している。基礎学力の定着が少しおこら見えてきていると考えられる。

- ・正答率が市平均の7割に満たない児童（区分IV）の割合は、令和5年度は72%であったが、令和6年度は74%と増加傾向にあり底上げが必要である。
- ・「読書は好きですか」という質問に対する肯定的な回答の割合は、4・5年生は90%に近い割合で肯定的な回答が見られるが、3・6年生が80%に届かなくなり、全体（3～6年生）としては78.2%と80%に至らない。しかしながら「読書が好き」という児童の割合は毎年増加傾向がみられている（児童アンケートでは85%）。

学校の教育活動全体から

- ・児童の「基礎学力」の定着と「自主性」に重点を置いた「矢田東漢字・計算クライミング」を継続して実施している。取組内容や評価方法などについて教員間で話し合い、児童の実態に合わせたもの、興味関心を持つものを模索し実施してきた。継続的に実施したことで成果が出はじめ、また課題を見つけることができている。今後も継続的に実施し、それぞれの学年での基礎基本の学力の定着を図っていきたい。
- ・児童の学習用端末の活用は日常的に行われ、使用回数は確実に増えている。様々なアンケートにおいても「タブレットやパソコンを使った授業は楽しいですか」という質問に対して肯定的回答は90%以上である。今後も継続して活用していくためにタブレットの活用方法について、全学年の工夫した効果的な取組を期待する。
- ・さまざまな読書活動の推進を行ってきたことで、児童が本に触れる機会が増え読書環境は大幅に改善されている。その成果は経年調査のアンケートだけでなく、学力テストや児童アンケート・保護者アンケートなども含めて確認した。全体的にみて、「読書が好きである」という質問への肯定的な回答は、概ね80%以上ある。毎年高学年の読書に対する意欲の、肯定的回答は少しづつ上がってきている。これまでの継続的な推進活動に成果がみられてきたと思われる。
- ・普段の休み時間の運動場の様子や、児童アンケート・経年調査などから、本校の児童は「運動が好き」な児童は比較的多いといえる。しかしながら、これまでスポーツテストでみられる数値的な結果は、大阪市や全国平均には届いていないことが多かった。「好き」であるが「結果」として表れていない要因としては、それぞれの動きについて「正しく」「正確な」動きが身についていないことが考えられる。今後も指導者の指導力向上と体育の授業の充実を図って、児童の体力の維持・向上だけでなく、「体の正しい動き」についての指導法も工夫していきたい。
- ・児童のきまりに対する意識は高まっているが、通学帽子の着用や持ち物、身だしなみ等の学校生活における基本的なことについては、課題が見られる児童も少なくない。児童のひとりひとりの課題については、家庭的な背景も含めスクリーニング会議Ⅰなどで教員間で共通理解を図り、継続した指導を教員全体で行っていく。
- ・「仲良く」「人の役に立つ」「あいさつ」の3つについてはどれも概ねできている。児童の良いところを認めつつ、アンケートの結果だけでなく、実質も伴った成果として伸ばしていくような声かけや指導が必要である。
- ・これまで、ゲストティーチャーを招いた出前授業や、学習の場や方法を工夫した体験活動を行うことができた。また、教職員の研修活動についても、授業力の向上に向けて公開授業を実施したり研究会に出向いたりして、さらに努めていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合(R5: 76.7% R6: 80.0%)を90%以上にする。R7:85.7%
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合(R5: 81.4% R6: 86.7%)を、90%以上にする。R7:88.6%
- 毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合(R4: 0% R5: 9.68% R6: 1.63%)を、毎年、前年度より減少させる。R7:未
- 每年度末の校内調査において、前年度不登校の児童の改善の割合(R4: 0% R5: 50% R6: 52.9%)を、前年度より増加させる。R7:未
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和3年度(63%)より15%増加させる(R5: 88.4% R6: 88.9%)。R7:80%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童をいずれの学年も令和3年度(3年 58%・4年 66%・5年 72%・6年 77%) 68.2%より10%減少させる。R7:未
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において比較し、いずれの学年も(R6: 3年 0.92・4年 0.76・5年 0.76・6年 0.70より) 0.03ポイント向上させる。R7:未
- 令和7年度小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合(R5: 48% R6: 48.9%)を、35%以上にする。R7:未
- 令和7年度の経年調査や児童アンケートの「外国語(英語)は好きですか。」についての肯定的回答の割合(R5 経 84%・児 84% / R6 経 86%・児 90%)を90%以上にするR7:未。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合(R5: 63% R6: 68.5%)を70%以上にする。R7:77.5%
- 特に課題にあげるソフトボール投げと50m走を、令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、令和3年度(ゾ:男 45.7・女 53.3、50m:男 44.7・女 51.2)より(T得点)5ポイント増加させる。R7:50m走 男子 9.6 秒 女子 9.6 秒

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習端末を活用して学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%以上にする。R7:未
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1※を満たす教員の割合を(R5: 60.8%・R6: 63.48%) 56.4%以上にする。

R7:4月:92% 5月:92% 6月:92% 7月:92% 8月:92%

※教員の勤務時間に関する基準1・・・次のア及びイの基準を満たすこと

- ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること
- イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合(R6:85.1%)を、88%以上にする。R7:未
- ② 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合(R6:86.6%)を88%以上にする。R7:未
- ③ 令和7年度の大阪市学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度(63.8%)より増加させる。R7:未

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3年 0.966・4年 0.927・5年 0.933・6年 0.925)より 0.01 ポイント以上向上させる。R7:未
- ② 令和7年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3年 0.989・4年 0.918・5年 0.921・6年 0.906)より 0.01 ポイント以上向上させる。R7:未
- ③ 令和7年度小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていることができている」に対して、最も肯定的に答える児童の割合(R6:38.4%)を、2%以上増加させる。R7:未
- ④ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合(R6:68.5%)を68%以上にする。R7:77.5%
- ⑤ 特に課題にあげる50m走を、令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度(男子:9.6秒・女子:9.5秒)より0.1秒短縮させる。

R7:男子 9.6秒 女子 9.6秒

【学びを支える教育環境の充実】

- ⑥ 授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事 I C T 活用が適さない日数を除く]
利活用率月平均 R7 4月:なし 5月:61.5% 6月:59.8% 7月:63.5%
8割以上の日数の割合 8月までの累計 1.9%
- ⑦ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。
R7 4月:92% 5月:92% 6月:92% 7月:92% 8月:92%

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式 1)

大阪市立矢田東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合(R6:85. 1%)を、88%以上にする。 R7:未 ② 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合(R6:86. 6%)を88%以上にする。 R7:未 ③ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度(63. 8%)より増加させる。 R7:80%	—
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 家庭との連携を密に行い、生活指導案件に対して早期解決を図る。	(1-1～4) B
指標 児童アンケートにおいて「学校は楽しいですか」という項目に対して、最も肯定的に回答する児童(R 6:61. 6%)を63%以上にする。 R7(1回目):63%	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 全学級で、毎月末に、いじめの認知件数と解消した件数などをまとめ、校内で共通理解を図り、組織的な対応を行う。	(1-1いじめへの対応) C
指標 児童アンケートの「友だちのいやがること(いじめや仲間はずれ)をしないように気を付けて行動できていますか」について、最も肯定的回答の割合(R 6:77.7%)を80%以上にする。 R7(1回目):73%	
取組内容③ 「特別の教科」道徳、道徳教育の充実を図り、自己肯定感・有用感を持てるようにする。	(2-1 道徳教育の推進) C
指標 児童アンケートの「道徳で学んだことは役に立っていますか。」についての、最も肯定的回答の割合(R 6:66.1%)を66%以上にする。 R7(1回目):60%	

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

年間を通して複数回、児童の実態に合った体験的な学習や、ゲストティーチャーによる授業を実施するなど、体験活動の充実を図る。

(2-2 キャリア教育の充実)

指標

児童アンケートや経年調査の「将来の夢や目標を持っていますか。」についての肯定的回答の割合（児:89%・経:81%）を80%以上にする。

R7(1回目):91%

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①・学校全体で見ると、92%の児童が「学校は楽しい」（最も肯定的な回答の割合も63%）と肯定的に回答しており、日々の教育活動が児童の満足度向上に繋がっているといえる。
- ②・最も肯定的な回答は73%と目標には届かなかったものの、「肯定的」な回答を含めると95%と非常に高く、多くの児童が「いじめをしない」という意識を持っていることがわかる。一方、「最も肯定的」回答が73%に留まっていることは、児童が「気を付けて行動できている」という自信をまだ十分に持てていないことを表している可能性がある。
- ③・中間評価の結果は全体で80%となり、現時点では目標達成には至っていない。学年別に見ると大きな差が見られる。
 - ・低学年では、「肯定的」な回答を含めると80%以上が道徳に価値を感じており、基礎的な部分での理解は進んでいると考えられる。さらに、学校のルールや日々の生活と結びつけた授業が有効に機能し、道徳の有用性を実感している児童が多い。
 - ・3年生から6年生にかけて、「道徳が役に立っている」という実感が薄れ、最も肯定的な回答の割合が低くなっている。多くの学年で、授業で学んだ内容と実際の日常生活を結びつけて考えることができていないという点が共通の課題といえる。
- ④・中間評価の結果は全体で91%となり、目標を大きく上回りAとした。
 - ・1年生から6年生まで、すべての学年で86%以上の児童が「将来の夢や目標を持っている」と回答しており、数値上、本校の児童の未来に対する希望や意欲が非常に高いと捉えられる。
 - ・1年生の、見守り隊との交流や6年生との交流など、早い段階から体験的な学習を取り入れていることが、目標達成に寄与していると考えられる。
 - ・2学期以降も社会見学や出前授業など、各学年で多様な体験活動の実施を予定している。

改善点

- ②・「いじめは絶対にいけない」という規範意識だけでなく、実際にどのように行動すればよいのか、具体的な場面を想定した指導を強化していく。
- ③・児童が学習の中で成功体験を味わえるような機会を増やしていく。
 - ・児童の実態に合わせて教材を選定・工夫し、「自分ごと」として捉えられるように授業を組み立てる。「これと似たようなことあった?」「そのときどうした?」「これからどうした?」といった発問を積極的に行い、思考を深めていく。
 - ・授業外でも、学んだ内容を想起させるような声かけを継続的に行い、道徳が日々の生活に役立つという感覚を育んでいく。
- ④・2学期以降、異学年交流や保幼小連携・小中連携・地域連携など、より計画的・継続的な体験活動を増やしていく。
 - ・体験活動を通じて、児童一人ひとりが「自分にもできる」「人の役に立てる」という有

用感や自己肯定感を持てるよう、指導を工夫していく。

- ・ゲストティーチャーの招へいを継続し、児童が様々な職業や生き方を持つ人々と触れ合う機会を増やしていく。

(様式 1)

大阪市立矢田東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 令和 7 年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の大坂市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3 年 0.966・4 年 0.927・5 年 0.933・6 年 0.925)より 0.01 ポイント以上向上させる。R7:未</p> <p>② 令和 7 年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の大坂市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3 年 0.989・4 年 0.918・5 年 0.921・6 年 0.906)より 0.01 ポイント以上向上させる。R7:未</p> <p>③ 令和 7 年度小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に答える児童の割合 (R 6:38.4%) を、2 %以上増加させる。R7:未</p> <p>④ 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合 (R 6:68.5%) を 68%以上にする。R7:71.5%</p> <p>⑤ 特に課題にあげる 50m走を、令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度(男子: 9.6 秒・女子:9.5 秒)より 0.1 秒短縮させる。R7:男子 9.6 秒 女子 9.6 秒</p>	—

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。</p> <p>(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における国語の平均正答率の大坂市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度 (3 年 0.966・4 年 0.927・5 年 0.933・6 年 0.925)より 0.01 ポイント以上向上させる。R7:未</p>	未
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。</p> <p>(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における算数の平均正答率の大坂市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3 年 0.989・4 年 0.918・5 年 0.921・6 年 0.906)より 0.01 ポイント以上向上させる。R7:未</p>	未

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進を行う。

(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)

指標

児童アンケートや経年調査において「学校の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。(友だちの意見を聞いて「わかった」「なるほど」「私とは違う考えだな」と思ったり、それを発表したりできますか。)」についての、最も肯定的回答の割合(児:65%・経:38.4%)を65%以上にする。

R7(1回目):55%

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

「矢田東漢字・計算クライミング」の継続実施や学習教材データ配信の活用等を工夫して行い、児童のそれぞれの学年での基礎学力の定着を図る。

(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)

指標

「矢田東漢字・計算クライミングパワーアップ週間」で各学年の70%の児童が目標を達成するようにする。

1学期:1年 81% 2年 64% 3年 97% 4年 81% 5年 14% 6年 71% 全体 69%

取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】

年間を通じて様々な運動ができる場の設定を工夫したり、施設設備・教材教具を有効に活用したりして、体力・運動能力の向上を図る。

(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

指標

児童アンケートや令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合(R 6:児 80.6%・全国体力 63.3%)を75%以上にする。

R7(1回目):74% 全国:77.5%

取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】

全学年で毎学期に、2時間目の休み時間などを活用した業間体育を実施するなど、健康安全活動の充実(体力づくり)を図る。

(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

指標

1学期に全学年で行っているスポーツテストの結果を分析し、50m走の測定を年間で複数回行い、年度末の記録を年度当初の各学年の全国平均より向上させる。

R7:未

未

取組内容⑦【基本的な方向8 生涯学習の支援】

学級文庫の整備や、教職員が学校図書館司書と連携した読書活動の推進を行い、児童の読書意欲の向上を図る。

(8-2「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づく取組)

指標

児童アンケートや経年調査の「読書は好きですか。」についての肯定的回答の割合(R 6:児 86.8%・経 78.2%)を85%以上にする。**R7(1回目):90%**

A

取組内容⑧【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

「令和7年度給食における食に関する年間指導計画」に則って、給食指導や栄養指導等を通して「食べ物と健康」のかかわりに対して理解を図り、児童の生活習慣の改善を図る。

(5-2 健康教育・食育の推進)

未

指標

児童アンケートなどで「給食の食材が持つ栄養（三色食品群）を意識して食べている」についての肯定的回答の割合（R6：87%）を85%以上にする。**R7：「食べ物のエネルギーになる「黄」体を作る「赤」体の調子を整える「緑」は知っていますか？」**

9月：92%

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①②

- ・学力経年調査は12月に実施予定。
- ・5年生では「けテぶれ（計画・テスト・分析・振り返り）学習法」を取り入れ、児童が自分に合った学習方法を探求する試みを行っている。
- ・「矢田東漢字・計算クライミング」の継続的な実施に加え、各学年で朝学習や宿題の内容を工夫するなど、学年それぞれに児童の実態に合わせて基礎学力の定着に取り組んでいる。
- ・5コースのポイント制を導入した「計算クライミング」は、取り組む児童の意欲を高めており、声かけによって参加者が増えるという成果も出ている。2学期からは「ことのはクライミング」も導入予定。一方で、学級でのフォローが必要な児童もいることから、児童が積極的に取り組めるような工夫が必要と考えられる。
- ・各学年とも、学習に対する自主性と習慣化に課題があるととらえている。また、6年生でも基礎・基本に課題がある児童が多く、継続的な指導を行っていく必要がある。

：

- ③・中間評価の結果は全体で55%となり、目標達成には至っていない。学年別に見ると、1年生は目標を達成している一方、学年が上がるにつれて最も肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られる。多くの学年で、話し合い活動は行われているものの、「聞くことはできているが、話すことができない」など、「自分の考えが深まった・広がった」と強く実感できるまでには至っていないことが、最も肯定的な回答が低い要因と考えられる。
- ・どの学級でもペアやグループでの交流活動が実施されており、対話的な学びの「場」は設定している。1年生はペア交流を導入し目標を達成するなど、対話的な学びの第一歩を着実に踏み出している。しかし、高学年になるにつれ、「発言する児童が限られている」「話し合うのが嫌」「授業自体に苦手意識を持つ児童が見られる」など、対話的な学びの充実に関しての課題が見られる。
- ④・1学期の実施結果は全体で69%となり、目標達成には至っていない。
 - ・1年生は81%、3年生は97%、4年生は81%、6年生は77%と、多くの学年が目標を達成できた。特に、1年生は「学びの保健室」と連携して実施することで、自ら進んで取り組む児童が多かったという成果が出ている。
 - ・学力向上だけでなく、目標に向かって努力する姿勢を育むという点で大きな価値があると考える。

- ・「問題数が多くて集中が切れる」「惜しい児童が多い」という声があり、問題の難易度や量、評価基準の見直しが必要と考えられる。
- ・6年生でも基礎基本の取りこぼしが見られ、この取り組みが単発ではなく継続的な学習習慣に結びつくような工夫が必要である。

- ⑤・中間評価の結果は、児童アンケートで74%、全国体力・運動能力、運動習慣等調査で77.5%と、いずれも目標をほぼ達成する結果となった。
- ・児童アンケートおよび全国調査の結果から、本校の児童は全体的に運動やスポーツが好きであるという傾向が非常に強いことが分かった。
 - ・1年生は目標を達成し、2年生も「体を動かすのが好き」という回答が多く、日常的に運動を楽しんでいる児童が多い。また、担任が一緒になって遊ぶことで、クラス全体で体を動かす機会が確保されている。
 - ・一方で、年が上がるにつれて運動への意欲が低くなっているという課題も見られる。また、運動が好きな児童とそうでない児童の「二極化」が進んでおり、運動場に出たがらない児童への働きかけも必要と思われる。
 - ・夏場は熱中症のリスクもあり、運動場や講堂が使えないこともあった。活動時間や場所の工夫が求められる。
- ⑥・5月に新体力テストに向けた業間体育を実施した。
- ・「1週間のみの実施では効果を感じられない」という声があり、実施方法や期間について検討が必要。
- ⑦・学校アンケートの数値を継続・さらに向上できるように指導する。
- ⑧・2学期からアンケートを実施し、取り組みの成果をはかっていく。
- ・放送や掲示物を活用するなど、アンケート結果を共有するだけなく、食育に関する啓発活動を積極的に行っていく予定にしている。
 - ・2学期には、各学年栄養教諭による栄養指導が予定されている。

改善点

- ①②
- ③・「ペア・グループ学習」のを授業の中で多く取り入れ、全員が必ず発言する場面を意図的に設けるなど、対話の質を高める工夫をしていく。
- ・小さな成功体験を積み重ね、話し合いが行うことができているということを実感したり、話し合いへの苦手意識を減らしたりしていく。
- ④・特に学習に苦手意識を持つ児童に対して、教員からの積極的な声かけや、学級全体でフォローする体制を整えていく。
- ・他人と比べるのではなく、個に応じて「今よりもできるようになったこと」を認め、褒めることを大切にしていく。
 - ・問題数や難易度が高いと感じている学年については、合格点を下げるなど、児童一人ひとりのレベルに合わせた目標設定も含めて今後のあり方を検討していく。
- ⑤・児童が「運動は楽しい」と感じ続けられるよう、体育の授業や休み時間の過ごし方を工夫し、運動への抵抗感をなくしていく。

- ・天候や気温に合わせた運動場所や時間の選択など、安全に配慮した運動機会を検討していく。
- ⑥・2学期以降も、業間体育を計画的に実施していく。
- ⑦・多様な読書活動（読み聞かせ、ビブリオバトル等）や、図書館司書との連携、動機づけの強化を行っていく。

(様式 1)

大阪市立矢田東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事 I C T 活用が適さない日数を除く〕 (R6:14.0%)</p> <p>利活用率月平均 R7 4月:なし 5月:61.5% 6月:59.8% 7月:63.5%</p> <p>8割以上の日数の割合 8月までの累計 1.9%</p> <p>② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 ※を満たす教員の割合 (R5:60.8%) を 60% 以上にする。</p> <p>R7 4月:92% 5月:92% 6月:92% 7月:92% 8月:92%</p>	—

※教員の勤務時間に関する基準 1 ・・・次のア及びイの基準を満たすこと

- ア 1か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えないようにすること
- イ 1年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えないようにすること

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>タブレットやノートパソコンなどの ICT 機器の効果的な活用を図り、毎日の授業改善を実践する。</p> <p>(6-1ICT を活用した教育の推進)</p>	
<p>指標</p> <p>児童アンケートや経年調査の「タブレット端末（デジタルドリル）を使った授業は楽しいですか。」についての肯定的回答の割合 (R6:児 94.6%・経 73.9%) を 80% 以上にする。R7:95%(1年生を除いた数値※1年生は未使用のため)</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教育活動全体の検証・改善によって教育の質を向上させる。</p> <p>(7-1 働き方改革の推進)</p>	
<p>指標</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 60% 以上にする。</p> <p>R7 4月:92% 5月:92% 6月:92% 7月:92% 8月:92%</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①・非常に高い数値がアンケート結果からわかる。各学年での指導を継続していくようとする。
(ナビマ・桃鉄・power pointでの発表など授業に使うと便利なツールを使用していく。)
- ・児童用端末の活用については、学習アプリの授業での活用や持ち帰りによる家庭での使用によって、各学級・学年で本校の実態に合わせた活用方法を工夫して取り組んでいる。また、「心の天気」の入力について、朝夕を基本とした毎日の入力を各学級担任で習慣化できるように取り組んでいる。
- ②
- ・毎月の「時間外勤務状況」結果について、資料として全体共有し、勤務時間における教職員の意識づけとしている。また、単に時間外勤務時間を減少させるだけでなく、効率的かつ効果的な業務遂行となるような教育の質を落とさないよう学校全体で取り組んでいる。その成果は、前年度のいずれの月よりも改善傾向にあるという成果でまずは数値として表れている。

改善点

- ①②進捗状況がいずれもAのため、継続して取り組んでいく。